



安城サクスフェスティバルの様子

❖沿革

安城中央商店街連盟(以下「中商連」という。)区域に存在する商店街の起源は明治時代まで遡る。

現在のJR安城駅周辺は明治用水の開通を経て国鉄安城駅の開設を機に発展した。駅の隣に農協の前身である「碧海郡購買販売組合連合会」ができたのち、周辺には農家を相手とする多くの商工業者が集まり店を構え始める。これが現在のJR安城駅周辺の商店街の原型であった。

高度経済成長期を迎えた頃には「買い物に行くなら商店街」という時代がやってくる。安城市内に住む人々も、JR安城駅周辺に買い物に出かける際には、誰もが「安城に行ってくる」と口にしてきたという。当時の商店街は「あそこに行けば何でも揃う」と思わせるほどの賑わいを見せていた。

だが、平成に入ると状況は一変する。全国の商店街で問題となっている店主の高齢化や大型小売店舗の出店による売上減などに加え、中商連エリアの

中心地にあった総合病院移転の影響で来街者が減少してしまった。

通常、来街者の減少に比例して商店数も減少するのが一般的だ。来街者、商店数の減少に歯止めがかからず、商店街を解体せざるをえなかった団体も、全国に数多く存在する。

しかし、中商連エリアでは、最盛期にあった商店のうち、じつに7割以上が現在もそのまま店を構えている。この大きな要因は、商店街の考え方である「トライ&エラー」によるものだ(「トライ&エラー」=「試行錯誤」の意)。常にスピード感を持ちつつ「トライ&エラー」で新たなイベントに取り組むことで、来街者、商店数の減少を抑えてきた。現在も更なる活性化に向けて新たな取組を進めている。

以下では、中商連が現在行っている際立った取組をご紹介します。

❖商店街を取り巻く環境

中商連区域は安城市の中心市街地約160ha内に存在する5商店街振興組合の連合体である。JR安城駅周辺に位置する花ノ木商店街振興組合、安城市朝日町商店街振興組合、安城市御幸商店街振興組合、安城市本通り商店街振興組合、安城セントラル商店街振興組合で形成され、古くから駅前商店街として発展してきた。しかし、大規模小売店舗の進出や平成14年の総合病院の郊外移転により、商店街を訪れる人が減少している。

しかし、平成24年度に安城市が策定した「中心市街地拠点整備事業計画」の中では、総合病院の跡地に複合施設を建設することが計画されており、周辺では区画整理事業も行われていることから、今後も人口増加が予想される地区である。複合施設の完成や人口増加とともに、周辺の商店街も今以上に賑わうことが期待されている。



交流広場(総合病院跡地)

取組

安城サクスフェスティバル



イベント



キャラクター

❖取組を開始したきっかけ

安城といえば、昭和29年からの伝統を持つ「安城七夕まつり」が有名だ。まつり当日には多くの人が訪れ、安城のまちは大いににぎわうのだが、「日常の商店街」を訪れる人は年々減少してしまっていた。この現状を受けた中心市街地活性化対策協議会は、平成10年3月に報告書「21世紀の人まち夢作り」の中で、「七夕というビックイベントだけではなく新しいイベントをやること」を提言する。



安城七夕まつりの様子



▲安城サクスフェスティバルの案内チラシ

この提言を受けて立ち上がったのが商店街の各店主だった。彼ら店主によって「商店街を身近に感じさせ日常の賑わいを取り戻すこと」をテーマにできあがった新たなイベントが、平成10年10月に生まれた安城サクスフェスティバルだ。